

## 診察室から こんにちは

ながまつ産婦人科(レディースクリニック)

永松 晃

872-3788

南海本線鳥取ノ荘駅前(阪南市)

<http://www.rinku.zaq.ne.jp/nagamatsu>

### 流産の予防について

せっかく妊娠したのに流産となつて、悲しい思いをされる方がおられます。特に、一度は胎児の心拍が見えて順調にみえた妊娠の流産や、繰り返しの流産などはなおさらです。今までは、ほとんどの場合、胎児に問題があったという事で説明されてきたようですが、最近是不育症の研究が進み、感染や赤ちゃんと妊婦さん繋ぐ臍帯(へその緒)の血の流れ具合が原因のひとつといわれるようになってきました。

妊娠初期から取り組めば、流産しないで済んだかもしれないという可能性もあります。切迫流産の場合ほとんどが、出血や、腹痛を訴えて来院されますが、そういった方の話をよく聞いたうえで、早い段階からの安静(必要なら入院)やお薬、感染の予防といった努力をすることで流

産率を低下させることができます。

特に、妊娠初期の出血には気をつけてください。迷わず主治医の先生と相談する事です。

(次回の産科は、産み分けと性別判定についてです。)

### 生理痛について

産婦人科に来院される方の訴えで多いのが生理痛です。特に学校や会社に行くのが辛いといった日常生活に支障をきたし、何らかの治療の必要がある場合を月経困難症といいます。

これには、子宮や卵巣などに異常がみられないものと、原因があるものにと大別され、前者のほうがかなり多いようです。特に10代や20代の若い方は、ほとんど前者です。このような若年の方には、鎮痛剤による対症療法、漢方薬など、また生理不順もある場合には、ホルモン剤が使われることもあります。大切な事は、原因がある方にはその原因となる病氣(例えば子宮筋腫や内膜症)の治療をし、不明な方には、その方のライフステージにあった治療をするという事です。年齢、結婚の有無、妊娠希望の有無、そういった事をお伺いした上での治療方針の決定という事になります。

(次回の婦人科は、生理不順についてです。)